

第6学年 社会科学習指導案

指導者 1組 伊藤 絵美【公開授業Ⅰ】
男子16名 女子15名 計31名

- 1 大単元名 日本の歴史
小単元名 戦争と人々の暮らし（教育出版 6年上）

2 小単元について

(1) 児童について

児童は、歴史学習に興味をもち、歴史上の人物の業績や時代の変化を捉える学習などに意欲的に取り組んできた。また、問題解決的な学習を進める中で、資料から読み取った事実を交流して理解を深めたり、問題の解決に向けてグループで考えをまとめたり、社会的な事象の意味を捉えるために交流したりする学習にも取り組んできた。

これらの学習を通して、友達の考えから学ぼうとする姿勢は育ってきており、自分の考えを深めることができる児童も増えてきている。アンケートでも、「中身を考えながら聞いているか」について、95%の児童が「聞いている・だいたい聞いている」と答えている。一方で、「考えを発表するのが好きか」については「好き・だいたい好き」が69%にとどまり、自分の考えを表現することへの苦手意識は根強いことが分かる。

(2) 教材について

本小単元は、小学校学習指導要領解説社会編の内容(1)ク「日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること。」を受けて設定したものであり、日華事変から太平洋戦争へと続く15年間にわたる戦時体制に至った背景やその経緯と戦争の被害について学習する。

この戦争を捉えるためには、歴史的事実を知ることのみならず、その事象の意味や意図を考え、事実のもつ重みを通して、当時の状況や人々の気持ちに迫ることが大切であると考え、この後に学習する民主主義や国際協調の大切さに気付くことにつながるものとする。

本小単元は、未来を担う子供たちに、平和を願う思いを育むことができる重要な教材である。

(3) 指導について

本校の高学年に身に付けさせたい力は、「根拠を示しながら、比較・関連・総合して考え、自分の考えを表現できる力」「交流を通して考えを深め、多面的に考える力」である。

本小単元では、戦争を昔の出来事として傍観的に捉えることなく、当時の世の中に身を置き共感的な態度で捉えたり、戦争を身近なものとして捉えたりするために、当時の写真や映像、体験者による出版物や証言、地域の戦争に関わる資料を吟味し、適切に提示していきたい。

交流活動は、自分の考えを深め、社会的事象を多面的に捉えるために行う。一人の力では多面的に考えるのが難しく、友達と交流することで多様な考えに触れられるであろう場面に位置付ける。本小單元では、中国やアメリカとの戦争がどのようなものであったかを考えさせる場面、戦争がアジア・太平洋地域に広がっていったことの影響を考えさせる場面、戦時中の人々がどのような気持ちで生活していたのかを考えさせる場面を取り入れていく。

グループ交流では、考えの根拠となる資料を示しながら考えを交流できるようにする。友達の考えに触れたり、自分の考えを言葉で説明したりすることにより、考えを再構築して、全体交流に臨む自信をもたせたい。その後の全体交流では、ホワイトボードや黒板を活用して考えを可視化したり、友達の考えにつなげて話すことを価値付けたりして、意見交流の活性化を図るようにする。出された考えを比較・関連・総合させていくことで、社会的な見方・考え方を養っていきたい。

3 小単元の目標

- (1) 日本の戦争がアジア・太平洋に広がっていった経緯や国内の様子について調べ、人々の暮らしや他国との関係がどのように変化していったかをつかみ、国内外の被害の状況について理解することができるようにする。

4 小単元の評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

- (1) 空襲による被害の様子と現在の様子から、戦争とその時代を生きた人々の暮らしに関心を持ち、進んで調べようとしている。
- (2) 戦争の経緯や当時の国民生活に関心を持ち、資料を調べて積極的に考えようとしている。

【社会的な思考・判断・表現】

- (1) 日本が戦った戦争やそのころの人々の暮らしについて学習問題を考え、表現している。
- (2) 戦争の状況と人々の暮らしの変化とを関連付けて考えている。

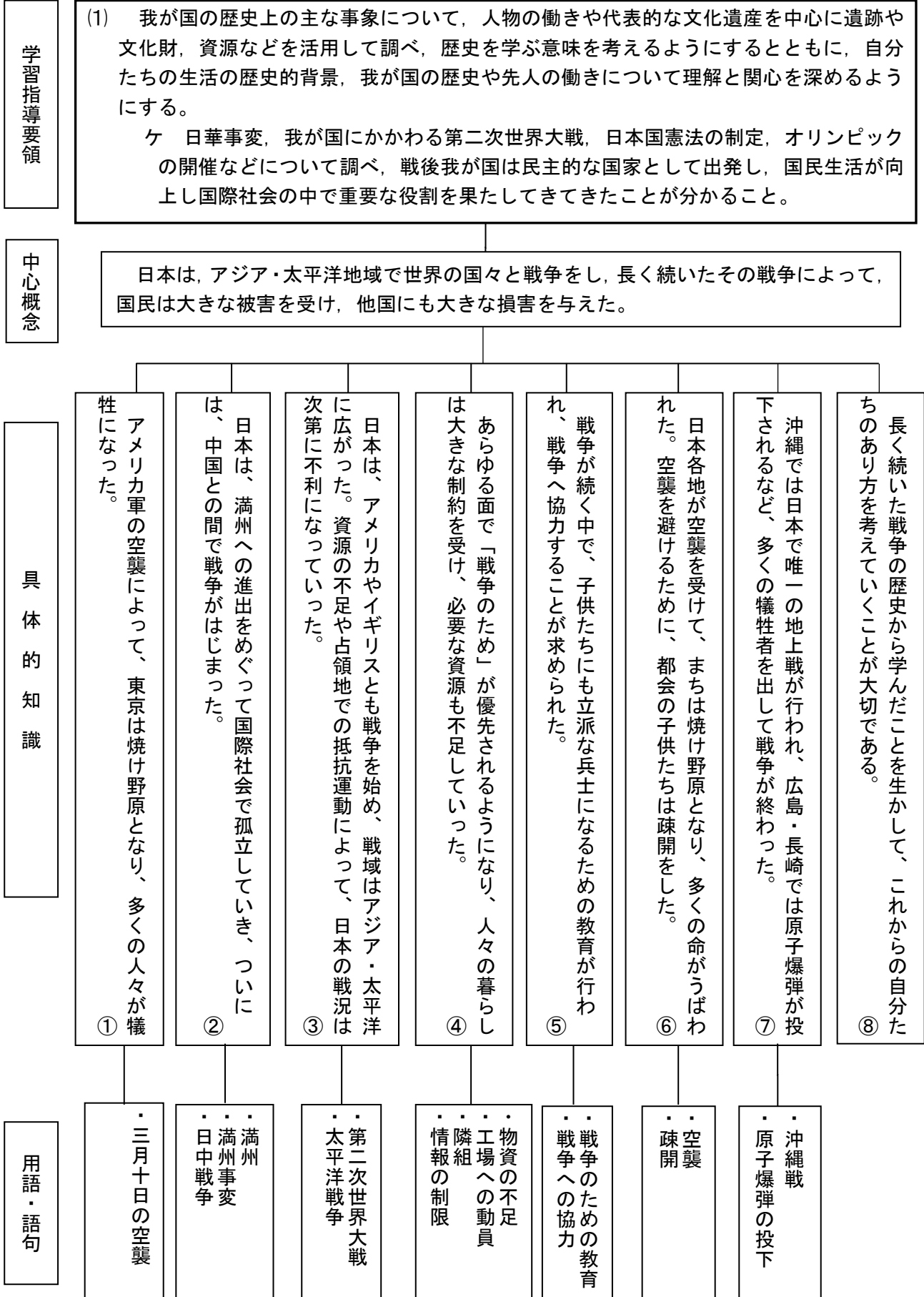
【観察・資料活用の技能】

- (1) 日本が国際社会の中で孤立していったことや戦争がアジア・太平洋に広がっていったことについて、写真や地図、年表などから読み取り、まとめている。

【社会的事象についての知識・理解】

- (1) 戦争がどのようにして始まったのかやそれが拡大していった経緯を理解している。
- (2) 戦争で、日本の国民が大きな被害を受けたことや他国にも大きな被害をあたえたことを理解している。

5 知識の構造図



6 学習指導計画（全8時間）

	主な学習活動	評価規準
第一次 つかむ	1 (1) 東京大空襲の直後と現在の写真を比較しながら、戦時中の日本の様子について考え、学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 日本が戦った戦争は、どのような戦争だったのだろうか。 それによって、人々の暮らしは、どうなったのだろうか。 </div> (2) 当時の社会や人々の暮らしに着目し、学習問題に対する予想を交流し、学習計画を立てる。	【関】 空襲の被害を受けた東京の写真から、戦争とその時代の人々の暮らしに関心を持ち、進んで調べようとしている。
	2 (1) 日本が中国大陸に進出し、中国との間で戦争が起こった経緯について調べる。	【知】 日中戦争が始まった経緯と、その後中国全土に戦線が拡大していったことを理解している。
第二次 調べる	3 (1) 戦争がアジア・太平洋地域へと広がっていく経緯とその背景を調べ、日本の状況や他の地域に与えた影響について考える。	【技】 年表や地図から、戦争がアジア・太平洋地域に広がっていったことを読み取っている。
	4 (1) 戦争が人々の暮らしにどのような影響を与えたのかを調べ、当時の人々はどのような思いだったのかを考える。	【知】 戦争中の国の政策が、人々の暮らしに与えた影響について理解している。
	5 (1) 戦争中の子供たちの暮らしの様子について調べ、当時の子供たちの思いや願いを考える。	【思】 戦争中の子供たちの暮らしの様子をつかみ、自分たちの日常生活と比較しながら、当時の子供の願いや思いを考えている。
	6 (1) 日本各地や北上市が受けた空襲の被害、地域に残る戦争遺跡等を調べ、戦争が国民に及ぼした影響について考える。	【知】 空襲によって国民が受けた被害の大きさについて理解している。
第三次 まとめる・深める	7 (1) 沖縄戦や広島・長崎の原爆の被害について調べたことをもとに、この戦争が大きな犠牲をはらって終わったことを捉える。 (2) 15年にわたる戦争を振り返り、「この戦争はとめることはできなかったか」というテーマについての自分の考えをまとめる。	【知】 沖縄戦や原爆がもたらした被害の大きさについて理解している。
	8 (1) 「この戦争はとめることはできなかったか」をテーマに交流する。 (2) 戦争に対する自分の考えをまとめる。 【6年1組公開授業Ⅰ】	【思】 学習したことをもとに、この戦争に対する自分の考えをノートにまとめ、表現している。

7 本時の指導（8/8時間）

【6年1組公開授業Ⅰ】

(1) 目標

15年間にわたる戦争を振り返り、この戦争はとめることはできなかったかを考えることを通して、この戦争に対する自分の考えを深めることができる。

(2) 本時の評価の観点と評価規準

観点	評価規準	概ね満足できる	支援を要する児童への手立て
	学習したことをもとに、この戦争に対する自分の考えをノートにまとめ、表現している。 【社会的な思考・判断・表現】	この戦争に対する自分の考えを、これまで学習したことをもとに根拠をもって述べている。 (例)初めは、この戦争はとめることができなかつたと考えていた。しかし、日本が国民や他国の人々の苦しみをもち考え、戦争をやめる決断をしていれば、戦争はとめることができたのではないかと思う。たくさんの人の命が奪われる戦争は、二度と繰り返してはならないと思う。	板書のキーワードや友達の考えを参考にして、自分が共感できたことをもとに考えをまとめるように声かけをする。

(3) 研究仮説に関わって

<学習問題の解決に向けて、子供たちが意欲的に交流する場や方法の工夫>

本時は、小単元「戦争と人々の暮らし」の学習を深める時間として、小単元を通して学んだ学習内容を振り返り所として、この戦争に対する自分の考えをまとめる活動を行う。考えを深める手立てとして、「この戦争はとめることはできなかったか」という学習問題を設定し、交流する。

グループ交流では、「とめられた」「とめられなかった」の同じ立場の数名でグループをつくり、根拠を交流することで自分の考えを確かなものにし、全体交流に意欲的に臨む姿勢をつくる。

全体交流では、立場を明確にしながらい反対の意見をもつグループに質問したり、戦争の原因や国際情勢、国内の状況を根拠にしながらい意見を述べたりして、葛藤させながらい集団思考を促したい。「当時の日本に欠けていたこと」を問うことで視点の転換を促し、学級全体で多面的に戦争を見つめ直し、平和の尊さへの思いにつなげていきたい。

(4) 展開

段階	学 習 活 動 (○主な発問, ◇期待する児童の反応)	指導上の留意点(・) 評価(□) 交流活動(☆)
導入 5分	① 前時を想起し、本時の学習問題を確認する。	・ 本時は、前時で考えた一人一人の考えをグループや全体で交流し、ゴールとして戦争に対する自分の考えをまとめることを確認する。
	この戦争は、とめることはできなかったか。	

展開
35分

② 学習問題について考える。

ア グループで交流する。

- まず、根拠となる資料を示しながら考えを伝え合ひましょう。次に、全体交流に向けてグループの考えをまとめましょう。
- ◇ 私が「とめられた」と思う理由は、きっかけをつくったのは日本だからです。満州事変や真珠湾攻撃をしなければ、このような戦争にはならなかったと思います。
- ◇ 私は「とめられた」と思います。戦況が不利になっているのに、日本は無理に戦争を進めたので、政府や軍がそこで戦争をやめる決断をしていればよかったのだと思います。
- ◇ 私が「とめられなかった」と思う理由は、当時の日本は生活が苦しかったからです。満州を手に入れば生活がよくなるという考えになってしまったのだと思います。
- ◇ 私は「とめられなかった」と思います。戦争はどんどん広がっていました。戦わなければ、逆に日本が占領されてしまったと思うからです。

イ 全体で交流する。

- グループで交流したことを発表しましょう。
- お互いの考えに対して、意見を出し合ひましょう。
- ◇ 「とめられなかった」に反対です。確かに日本は不況で苦しい状況だったけれども、自国のために満州を手に入れようという考えはもつべきではなかったと思います。
- ◇ 「とめられた」の理由の、戦争をやめる決断をしていればよかったという考えに反対です。国民の生活も戦争一色になっている中で、いまさらやめることはできなかったのだと思います。

☆ 同じ立場の児童同士でグループをつくって交流する。

- ・ 同じ立場でも、取り上げた根拠やそれに対する理由は多様であると思われる。質問したり意見を述べたりしながら、考えを深められるようにする。
- ・ 全体交流に向けて、理由を集約してホワイトボードにまとめさせる。
- ・ 時間があれば、予想される反論と、それに対する考えもグループで交流させる。

☆ 違う立場のグループ同士で意見を交流し合う。

- ・ 反論したり共感したりすることにより、考えを深められるようにする。
- ・ 「とめられた」意見は、どうしてよかったのかを、「とめられなかった」という意見は、戦争の原因・経過・当時の状況などを根拠にしていることに気付かせる。

	<p>③ 平和のあり方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事实は、日本は戦争をとめることはできませんでした。当時の日本は何が欠けていたのでしょうか。同じ過ちを繰り返さないために、当時の日本はどう変わればいいのでしょうか。 ◇ もっと国民の声が政治に反映されるべき。 ◇ 他の国を侵略するべきではない。 ◇ 国民一人一人が、戦争に反対する気持ちをしっかりとつべき。 ◇ 国と国との問題は話し合いによって解決するべき。 <p>④ 戦争への意見文をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの学習をもとに、この戦争に対する自分の考えをまとめましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「当時の日本に欠けていたこと」を問うことで視点の転換を促す。平和な社会のあり方を考えさせることで、戦争を見つめ直し、考えを深めさせる。 ・ 考えを再考させ、文章で書かせる。 □ 学習したことをもとに、この戦争に対する自分の考えをノートにまとめ、表現している。 (発言・ノート)
<p>日本が国民や他国の人々のことを考え、戦争をやめる決断をしていれば、この戦争はとめられたのではないか。</p>		
<p>終末 5分</p>	<p>⑤ 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今日の学習を振り返り、考えたことや友達の意見から学んだことなどを書きましょう。 <p>⑥ 次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習を自己評価、相互評価させる。

(5) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">15年の年表</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">この戦争は、とめることはできなかったか。</div> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">「とめられた」</td> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">「とめられなかった」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">ホワイトボード</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 80px; height: 30px; margin: 5px auto;"></div> </td> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">ホワイトボード</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 80px; height: 30px; margin: 5px auto;"></div> </td> </tr> </table>	「とめられた」	「とめられなかった」	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">ホワイトボード</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 80px; height: 30px; margin: 5px auto;"></div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">ホワイトボード</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 80px; height: 30px; margin: 5px auto;"></div>
「とめられた」	「とめられなかった」				
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">ホワイトボード</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 80px; height: 30px; margin: 5px auto;"></div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">ホワイトボード</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 80px; height: 30px; margin: 5px auto;"></div>				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">日本が国民や他国の人々のことを考え、戦争をやめる決断をしていれば、この戦争はとめられたのではないか。</div>					

